

令和7年度

沖縄県保育スキル向上研修 保育所保育指針について

保育の内容(第2章)



担当講師

【講師名】

實方 徹平
じつかた てっぺい

【講義実績】

- ・沖縄県保育スキル向上研修
- ・沖縄県子育て支援員研修
- ・大分県保育士等キャリアアップ研修
- ・愛知県保育士等キャリアアップ研修
- ・宮古島市保育士等キャリアアップ研修
- ・東京都子育て支援員研修

【プロフィール】

約10年の保育士の実務経験及び多数の保育所を運営する社会福祉法人の管理部門責任者としての経験から、保育指針に基づく保育については、造詣が深い。また、複数の指定保育士養成施設の講師として、講義を数多く担当し、保育指針に関する専門知識も豊富である。

研修資料

■ 研修資料

東京リーガルマインド作成パワーポイント
ポケット版 保育所保育指針(厚生労働省)

■ 参考資料

保育所保育指針解説(厚生労働省)



第1章でお伝えしたいこと

第1節
第2章
保育の内容
頭書

第2節
基本的事項

第3節
ねらい及び
内容

第4節
ねらい及び内
容と指導計画

第1節
第2章 保育の内容
頭書

1-1 乳児保育の重要性

【保育の意義】→「ヒト～人」「養護と教育」

人間性(知性、感性、他者との協働性等)をもった人間に育てることです。
つまり、動物としての「ヒト」から社会的存在としての「人」に育てることです。
そして、保育の具体的内容は、**養護と教育**です。

【保育指針 第2章 頭書】

保育における「**養護**」とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりであり、「**教育**」とは、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である。

「乳児」保育の意義

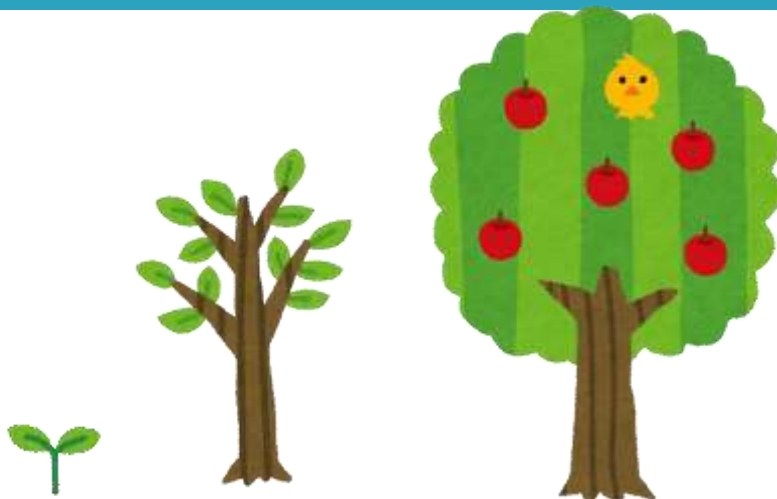


上記「保育」の**最初の段階(根っこの部分)**である



ここに乳児保育の重要性がある。

1-2 乳児期は人生の大切な根っこの部分



乳児期

現代的課題：スマホに子守をさせないで！



赤ちゃんの育ちをゆがめてしまうかも..

親子の会話や体験を共有する時間が奪われてしまう..

赤ちゃんの安全に気配りが出来ていない..

出典 公益社団法人 日本産婦人科医会

公益社団法人 日本小児科医会

第2節 基本的事項

2-1 乳児期の発達の特徴(情緒的な絆)

【保育指針 第2章 1(1)】

ア 乳児期の発達については、視覚、聴覚などの感覚や、座る、はう、歩くなどの運動機能が著しく発達し、**特定の大人との応答的な関わりを通じて、情緒的な絆が形成される**といった特徴がある。

これらの発達の特徴を踏まえて、乳児保育は、愛情豊かに、応答的に行われることが特に必要である。



【保育指針解説 第2章(1)】

乳児期は、主体として受け止められ、その欲求が受容される経験を積み重ねることによって育まれる特定の大人との信頼関係(情緒的な絆)を基盤に(安全基地として)、世界を広げ言葉を獲得し始める時期であり、保育においても愛情に満ちた応答的な関わりが大切である

2-2 情緒的な絆の具体例

乳児がおなかを空かせたりウンチをして不快な状態にいる場合、ミルクを与えてくれたり、おむつ交換をしてくれる(**養護**)ような保育士等がいたら、その乳児は自分の存在を受け止めてもらえることで、安心感や信頼感を得ていく(**愛着関係**)。

そして、その信頼関係を拠りどころとし(**安全基地**)、自ら環境に積極的にかかわり、おもちゃに手を伸ばして遊ぶように活動を広げ、資質・能力を高めていく(**教育**)。

この意味で受容的・応答的な関わりは非常に重要である。



2-3 乳児保育の発達の3つの視点(改正点)

【保育指針改正点】

改正保育指針は、乳児期は発達の諸側面(教育の側面→5領域)が未分化であることに鑑み、旧保育指針の5つの領域を改め、
「健やかに伸び伸び育つ」、「**身近な人と気持ちが通じ合う**」、「**身近なものに関わり感性が育つ**」の3つの視点から保育内容を整理した。



【保育指針 第2章 1(1)】

イ 本項においては、この時期の発達の特徴を踏まえ、乳児保育の「ねらい」及び「内容」については、
身体的発達に関する視点**「健やかに伸び伸びと育つ」**、
社会的発達に関する視点**「身近な人と気持ちが通じ合う」**
精神的発達に関する視点**「身近なものに関わり感性が育つ」**
としてまとめ、示している。

2-4 乳児保育の3つの視点の具体的内容

【保育指針第2章1(1)イ】

乳児保育のねらいと内容について三つの視点を示している。

身体的発達
に関する視点



「健やかに伸び伸びと育つ」

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養う。

社会的発達
に関する視点



「身近な人と気持ちが通じ合う」

受容的・応答的な関わりの下で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う。

精神的発達
に関する視点



「身近なものに関わり感性が育つ」

身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を培う。

2-5

3つの視点と5つの領域の関係①

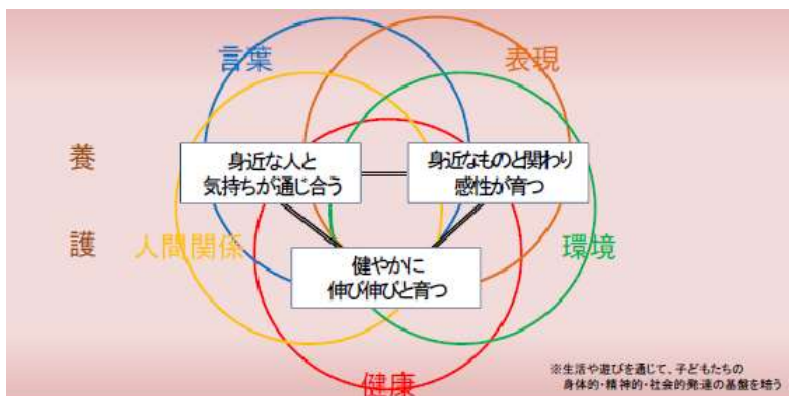
3つの視点は、「学びの芽生え」として、5つの領域につながる(連続性)。

視 点		領 域
健やかに伸び伸びと育つ	➡	健康
身近な人と気持ちが通じ合う	➡	人間関係 言葉
身近なものに関わり感性が育つ	➡	環境 表現

2-6

3つの視点と5つの領域の関係②

3つの視点と5つの領域を図に表すと下記のようになる。



出典：厚生労働省雇用均等・児童家庭局「保育所保育指針の改定について」

2-7 「養護及び教育」を一体的に行う例①

【保育指針 第2章 1(1)】

ウ 本項の各視点において示す保育の内容は、第1章の2に示された**養護**における「生命の保持」及び「情緒の安定」に関わる保育の内容と、**一体となって展開される**ものであることに留意が必要である。

第2章の保育内容は、主に**教育**に関わる側面からの視点を示しているが、実際の保育においては、養護と教育が一体となって展開されることに留意する必要があります。

次に、「**養護及び教育**」を**一体的に行う**ということを、事例をもとに検討してみます。

2-8 再掲：「養護及び教育」を一体的に行う例

乳児がおなかを空かせたりウンチをして不快な状態にいる場合、ミルクを与えてくれたり、おむつ交換をしてくれる(**養護**)ような保育士等がいたら、その乳児は自分の存在を受け止めてもらえることで、安心感や信頼感を得ていく(**愛着関係**)。

そして、その信頼関係を拠りどころとし(**安全基地**)、自ら環境に積極的にかかわり、おもちゃに手を伸ばして遊ぶように活動を広げ、資質・能力を高めていく(**教育**)。

この意味で応答的な関わりは非常に重要である。



2-9

「養護及び教育を一体的に行う」事例①

【 検討事例 】

保育士になって5年目のAさんは、新しく入所してきた下記のような子どもに出会った。

「生後6か月のSちゃんは、どんなに汚れていてもおむつ交換する際に嫌がって足をばたばたし、なかなか換えさせてくれません。」



（全国保育士会倫理綱領ガイドブックより）

このような場合に、皆さんはどんな対応をしますか。養護と教育の観点から考えてみましょう。

2-10

「養護及び教育を一体的に行う」事例②

【保育士Aさんの対応例】

Aさんは、Sちゃんが楽しく感じられるようなおむつ交換にしたいと考え、おむつ換えコーナーを**明るくあたたかな雰囲気**がでるように工夫しました。

おむつ交換は、あやしたり、くすぐったり、**1対1のふれあい遊びを楽しむよう**にしていきました。

横にすると嫌がっていたSちゃんですが、いつしか手を出して抱っこを求め、おむつ交換マットで盛んに手足を動かし、**保育士の働きかけを期待**して待っている様子が見え始めるようになりました。

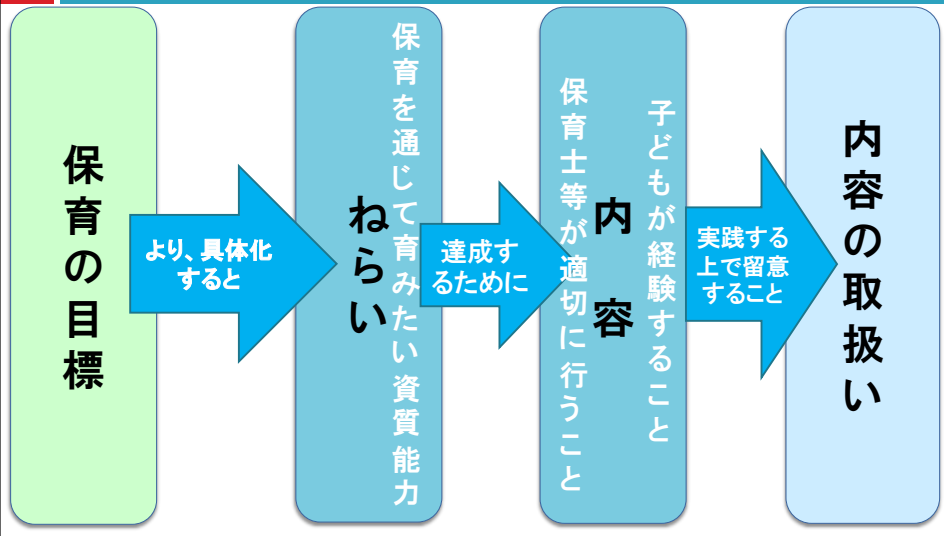
第3節 ねらい及び内容

3-1 「ねらい」と「内容」の意義

【第2章 保育の内容 頭書】

「ねらい」	保育の目標をより具体化したものであり、子どもが保育所において、安定した生活を送り、充実した活動ができるように、保育を通じて育みたい 資質・能力 を、子どもの 生活する姿 から捉えたものである。
「内容」	「内容」は、「ねらい」を達成するために、子どもの生活やその状況に応じて 保育士等が適切に行う事項 と、保育士等が援助して子どもが 環境に関わって経験する事項 を示したものである。

3-2 ねらいと内容の関係(構造)



3-3 乳児保育のねらい①

乳児保育のねらいは、発達を捉える**3つの視点(身体的、社会的、精神的発達)**のそれぞれに関し、保育指針第2章1(2)ア、イ、ウに記載されている。

視 点	ね ら い
1 健やかに伸び伸びと育つ	① 身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。
	② 伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。
	③ 食事、睡眠等の生活のリズムの感覚が芽生える。

3-4

乳児保育のねらい②

視 点	ね ら い
2 身近な人と気持ちを通じ合う	① 安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。
	② 体の動きや表情、発声等により、保育士等と気持ちを通わせようとする。
	③ 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。
視 点	ね ら い
3 身近なものと関わり感性が育つ	① 身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。
	② 見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。
	③ 身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。

3-5

各視点ごとのイメージ



健やかに伸び伸びと育つ



身近な人と気持ちが通じ合う



身近なものと関わり感性が育つ

3-6

乳児保育の内容①

基本的な生活習慣の土台となる経験をすることや他者への親しみ、自己肯定感が芽生える関わり合い等が必要である。

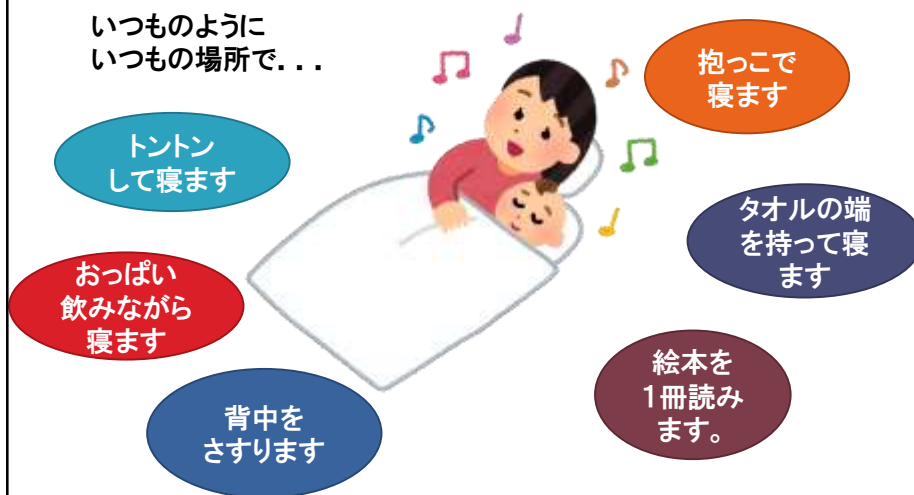
視 点	内 容
健やかに伸び伸びと育つ	① 保育士等の愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする。
	② 一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす
	③ 個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ。
	④ 一人一人の生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする。
	⑤ おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる。

3-7

【健やかに伸び伸びと育つ】

睡眠 ～入眠の儀式～

いつものように
いつもの場所で...



【健やかに伸び伸びと育つ】

3-8

おむつ交換



3-9

乳児保育の内容②

基本的な生活習慣の土台となる経験をすることや他者への親しみ、自己肯定感が芽生える関わり合い等が必要である。

視 点	内 容
身近な人と気持ちが通じ合う	① 子どもからの働きかけを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉がけによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす。
	② 体の動きや表情、発声、喃語等を優しく受け止めてもらい、保育士等とのやり取りを楽しむ。
	③ 生活や遊びの中で、自分の身近な人の存在に気付き、親しみの気持ちを表す。
	④ 保育士等による語りかけや歌いかけ、発声や喃語等への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ。
	⑤ 温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生える。

3-10

【身近な人と気持ちを通じ合う】
一人一人に応じた適切な援助



3-11

【身近な人と気持ちを通じ合う】
一人一人に応じた適切な援助



3-12

乳児保育の内容③

基本的な生活習慣の土台となる経験をすることや他者への親しみ、自己肯定感が芽生える関わり合い等が必要である。



視 点	内 容
身近なものとの関わり感性が育つ	<ol style="list-style-type: none"> ① 身近な生活用具、玩具や絵本などが用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心をもつ。 ② 生活や遊びの中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気付き、感覚の働きを豊かにする。 ③ 保育士等と一緒に様々な色彩や形のものや絵本などを見る。 ④ 玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。 ⑤ 保育士等のあやし遊びに機嫌よく応じたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする。

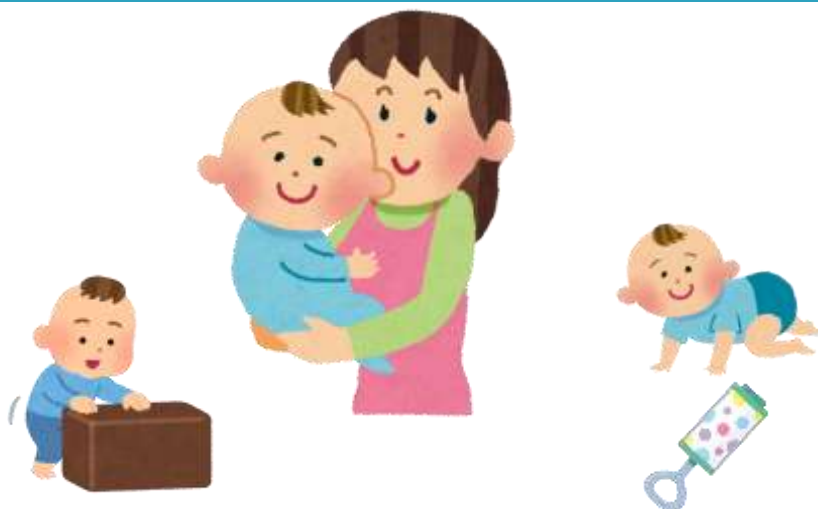
3-13

【身近なものとの関わり感性が育つ】 玩具とのかかわり



3-14

乳児期は、特定の大人と応答的なかわりを



3-15

乳児保育のねらいと保育内容



第4節 ねらい及び内容と指導計画

4-1

ねらい及び内容の具体化

ねらい、内容の理解



子どもの実態とねらい、内容を照らし合わせて、具体的な指導計画を作成



具体的指導計画に基づく保育の実施

4-2

保育指針の規定

【保育指針 第1章 3（2）】

ア 保育所は、全体的な計画に基づき、……（略）……、子どもの生活や発達を見通した**長期的**な指導計画と、それに関連しながら、**より具体的な子どもの日々の生活に即した短期的**な指導計画を作成しなければならない。

イ 指導計画の作成に当たっては、**第2章**及びその他の関連する章に示された事項のほか、子ども一人一人の発達過程や状況を十分に踏まえるとともに、次の事項に留意しなければならない。…（略）…

（ア）3歳未満児については、一人一人の子どもの生育歴、心身の発達、活動の実態等に即して、個別的な計画を作成すること。

ウ 指導計画においては、…（略）……子どもの発達過程を見通し、生活の連続性・季節の変化などを考慮し、子どもの実態に即した具体的な**ねらい及び内容**を設定すること。また、具体的なねらいが達成されるよう、子どもの生活する姿や発想を大切に**適切な環境**を構成し、子どもが主体的に活動できるようにすること。

4-3

指導計画の種類と作成手順

全体的な計画に基づき、具体的指導計画を作成する。年間、期間、月間指導計画等の**長期的**なもの、週間カリキュラムやデイリープログラム等の**短期的**なものがある。




指導計画の作成手順は、

- ① 現在の子どもの姿（育ちや内面の状態等）の理解
- ② 子ども発達過程を見通し「**ねらい及び内容**」の設定
- ③ これが具体的に達成できるような**環境**構成計画の作成
- ④ 子ども**主体的な活動**を予想し、そこへの**保育士等の適切な援助・配慮**を示す。

というような順序で行う。

個別指導計画(0歳児)の実例

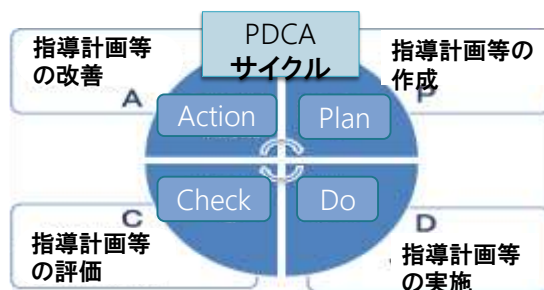
子どもの現在の状況 (実態)	保育士の考え	実際の指導計画
9か月のAちゃんは、お昼ご飯の終わった後、テーブルの上にこぼれたみそ汁のでびちゃびちゃしていた。	保育士は、「シャワーの水遊びは嫌だけど、感触がよかったのかしら。」とテーブルを拭きながら思った。 Aちゃんの 興味 から計画を立てることにした。 → ・Aちゃんの発見と楽しさを遊びの中で再現させてあげたい ・みそ汁は食べ物だから、何か他のもので、感触の似たものはないか。	テーブルで指スタンプをする。 ねらい :いろいろな感触に触れ、手触りなどに気付く → 内容 :指スタンプの冷たい感触や跡がつく様子を楽しむ。 → 次頁

子どもの現在の状況 (実態)	保育士の考え	実際の指導計画
指スタンプは、ほかの子は喜んで取り組んだ。 しかし、Aちゃんはスタンプ台に指を付けるのを嫌がった。	Aちゃんが心地よいと感じたのは、感触ではなく、ピチャピチャという音だったのでは？ と保育士は考えた。 →	音がする楽しさから感触を味わってほしいと思い、環境を設定した。 ねらい :音がする心地よさや様々な感触に興味をもつ 内容 :大ビニール袋を使った感触遊びを楽しむ。 → 下段へ
ビニール袋の中に登園時にAちゃんがお母さんと持ってきたアサガオのお花を入れたところ、花を触ろうして、ビニール袋に手が触り、また、保育者やほかの子どもたちの触る様子を見て、ピチャピチャと音がすることやビニールの感触を十分に楽しんだ。 さらに保育者にビニールの上に乗せてもらって音がするのを不思議がったり、喜んだりした。	Aちゃんの全身を使って水の感触を味わう様子に新たな成長の発見があった。 →	

4-5 PDCAサイクル

【保育指針 第1章 3(3)】

エ 保育士等は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化などに即して保育の過程を記録するとともに、これらを踏まえ、指導計画に基づく保育の内容の**見直し**を行い、**改善**を図ること。



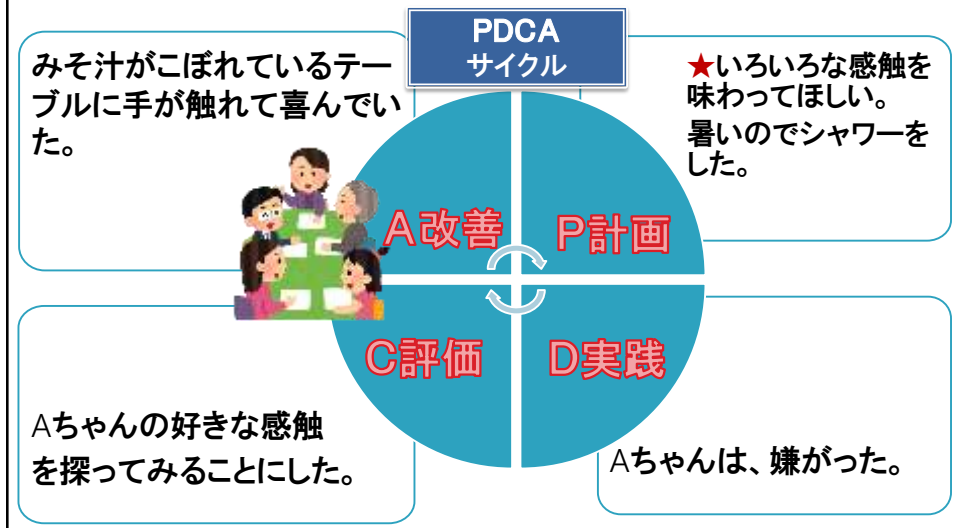
4-6 PDCAサイクル実施例

この事例をPDCAサイクルに当てはめてみましょう。



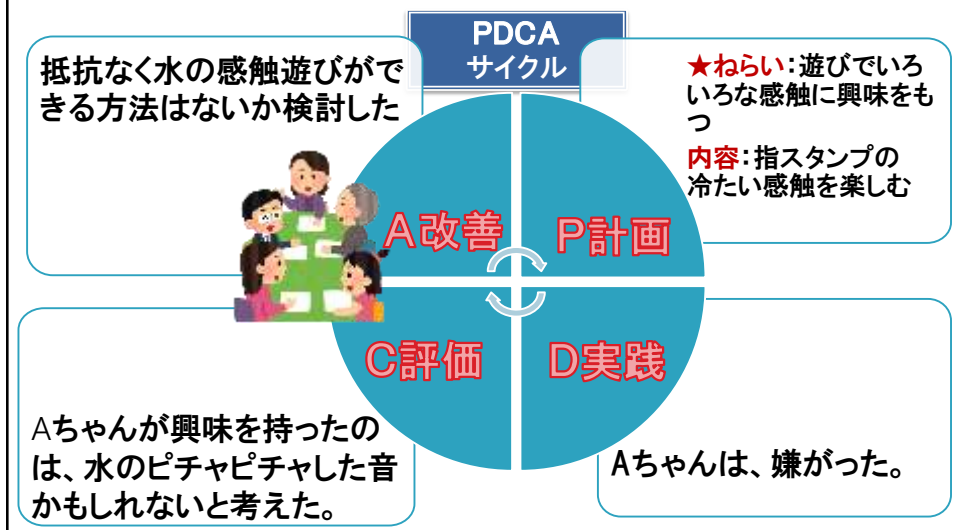
4-7

PDCAサイクル具体例①



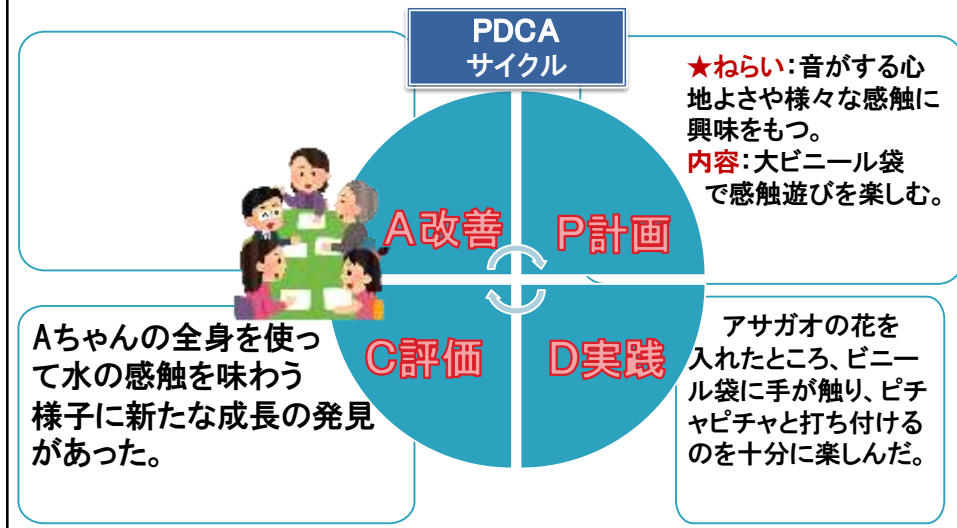
4-8

PDCAサイクル具体例②



4-9

PDCAサイクル具体例③



第2章 1歳以上3歳未満児の保育 に関わるねらい及び内容

第2章でお伝えしたいこと

第1節

1歳以上3歳
未満児保育
の重要性

第2節

基本的事項

第3節

ねらい及び
内容

第4節

ねらい及び内
容と指導計画

第1節

1歳以上3歳未満児
保育の重要性

1-1

乳児保育や3歳以上児の保育との関係

乳児保育



3つの視点から5つの領域へ分化

1歳以上3歳未満児の保育

- ・自分でしようとする気持ちの尊重
- ・他者との共存の土台
- (子ども同士の間わりが徐々に育まれる)



協同的な活動の促進

3歳以上児の保育

ここに1歳以上3歳未満児保育の重要性がある。

第2節 基本的事項

2-1

発達の特徴(自分でしようとする気持ち)

【保育指針 第2章 2(1)】

ア この時期においては、…歩く、走る、跳ぶなどへと、基本的な運動機能が次第に発達し、…つまむ、めくるなどの指先の機能も発達し、食事、衣類の着脱なども、保育士等の援助の下で自分で行うようになる。発声も明瞭になり、語彙も増加し、**自分の意思や欲求**を言葉で表出できるようになる。

このように自分でできることが増えてくる時期であることから、保育士等は、..**自分でしようとする気持ち**を尊重し、…応答的に関わる必要がある。

【保育指針解説 第2章2(1)】

自我が芽生え、1歳半ば頃から**強く自己主張**することも多くなる。

自分の思いや欲求を主張し、受け止めてもらう経験を重ねることで**他者を受け入れる**ことができ始める。……

保育士等は、子どものまだ十分には言葉にならない様々な思いを丁寧に汲み取り、受け入れつつ、子どもの「**自分でしたい**」という思いや願いを尊重して、その発達…を温かく見守り支えていくことが求められる。

2-2

3つの視点から5つの領域へ

歩く、走る、跳ぶなどの身体機能の発達や自分でしようとする気持ちからの諸々の発達があるこの時期の生活や遊びを捉える視点は、3つの視点から**5つの領域**に分化していく。

つまり、「**健康**」「**人間関係**」「**環境**」「**言葉**」「**表現**」となる。

【保育指針 第2章 2(1)】

イ 本項においては、この時期の発達の特徴を踏まえ、保育の「ねらい」及び「内容」について、心身の健康に関する領域「**健康**」、人との関わりに関する領域「**人間関係**」、身近な環境との関わりに関する領域「**環境**」、言葉の獲得に関する領域「**言葉**」及び感性と表現に関する領域「**表現**」としてまとめ、示している。

【保育指針第2章2(1)イ】

1歳以上3歳未満児保育のねらいと内容について5つの領域を示している。

心身の健康に関する領域

→「健康」

人との関わりに関する領域

→「人間関係」

身近な環境との関わりに関する領域

→「環境」

言葉の獲得に関する領域

→「言葉」

感性と表現に関する領域

→「表現」

領 域	具体的内容
健康	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。
人間関係	他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。
環境	周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。
言葉	経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。
表現	感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

2-5

3つの視点と5つの領域の関係①

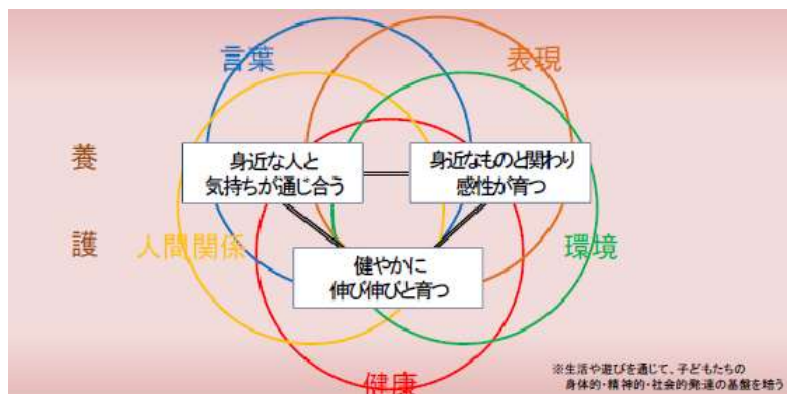
3つの視点は、「学びの芽生え」として、5つの領域につながる(連続性)。

視 点		領 域
健やかに伸び伸びと育つ	➡	健康
身近な人と気持ちを通じ合う	➡	人間関係 言葉
身近なものに関わり感性が育つ	➡	環境 表現

2-6

3つの視点と5つの領域の関係②

3つの視点と5つの領域を図に表すと下記のようになる。



出典：厚生労働省雇用均等・児童家庭局「保育所保育指針の改定について」

2-7

「養護及び教育」を一体的に行う

【保育指針 第2章 2(1)】

ウ 本項の各視点において示す保育の内容は、第1章の2に示された**養護における「生命の保持」及び「情緒の安定」**に関わる保育の内容と、**一体となって展開される**ものであることに留意が必要である。

第2章の保育内容は、主に教育に関わる側面からの視点を示しているが、実際の保育においては、養護と教育が一体となって展開されることに留意する必要があります。

次に、「**養護及び教育**」を**一体的に行う**ということを、事例をもとに検討してみます。

2-8

保育の内容の事例検討

A保育園の園児のBくん(1歳児)とCくん(1歳児)は、オモチャの取り合いをし、Bくんは、自分でオモチャを使うために、Cくんに噛みついてしまい、C君は、泣き出してしまった。

このような場合、保育士はどのようにかわるべきでしょうか。

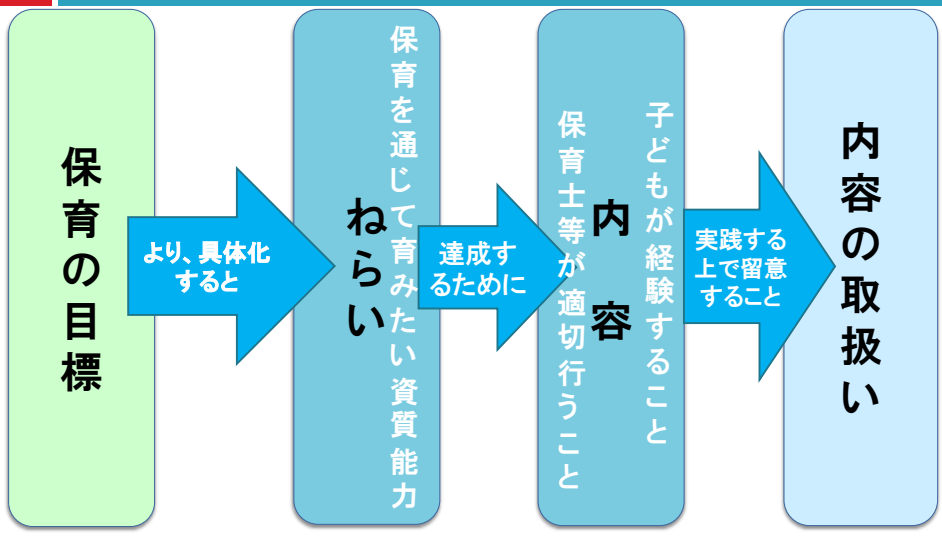
養護と教育の観点から考えてみましょう。



第3節 ねらい及び内容

3-1

ねらいと内容の関係(構造)



3-2

1歳以上3歳未満児保育のねらい ①

ねらいは、発達を捉える5つの領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）のそれぞれに関し、保育指針第2章2(2)に記載されてる。



領 域	ね ら い
1 健康	① 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。
	② 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。
	③ 健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育つ。

3-3

1歳以上3歳未満児保育のねらい ②

領 域	ね ら い
2 人間関係	① 保育所での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる。
	② 周囲の子ども等への興味や関心が高まり、関わりをもとうとする。
	③ 保育所の生活の仕方に慣れ、きまりの大切さに気付く。
領 域	ね ら い
3 環境	① 身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。
	② 様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。
	③ 見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする。

3-4

1歳以上3歳未満児保育のねらい ③

領 域	ね ら い
4 言葉	① 言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。
	② 人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする。
	③ 絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる。
領 域	ね ら い
5 表現	① 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。
	② 感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。
	③ 生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。

3-5

5つの領域のイメージ

下記のような子どもの姿に対して皆さんは、どのような言葉かけをしますか。



3-6

1歳以上3歳未満児保育の内容(健康)

自分でしようとする気持ちを尊重し、愛情豊かに、応答的に関わる必要がある。保育指針第2章2(2)に記載されている。



領域	内 容
健康	① 保育士等の愛情豊かな受容の下で、安定感をもって生活をする。
	② 食事や午睡、遊びと休息など、保育所における生活のリズムが形成される。
	③ 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ。
	④ 様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ。
	⑤ 身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く。
	⑥ 保育士等の助けを借りながら、衣類の着脱を自分でしようとする。
	⑦ 便器での排泄せつに慣れ、自分で排泄ができるようになる。

3-7

【健康】

進んで体動かしたり、食べようとする意欲

お腹すいた
ね～！



おいしそう
なおい～！

3-8 1歳以上3歳未満児保育の内容(人間関係)

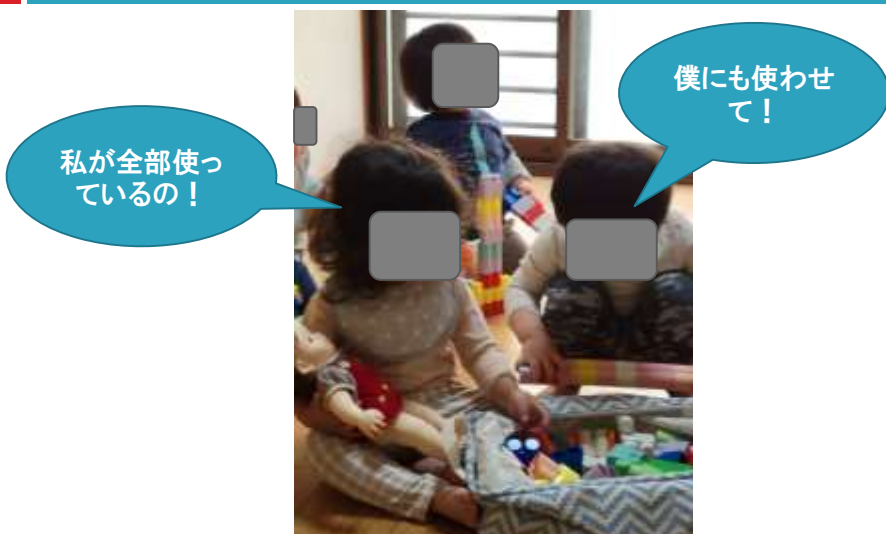
自分でしようとする気持ちを尊重し、愛情豊かに、応答的に関わる
ことが必要である。保育指針第2章2(2)に記載されている。

領域	内 容
人間関係	① 保育士等や周囲の子ども等との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる。 ② 保育士等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす。 ③ 身の回りに様々な人がいることに気付き、徐々に他の子どもと関わりをもって遊ぶ。 ④ 保育士等の仲立ちにより、他の子どもとの関わり方を少しずつ身につける。 ⑤ 保育所の生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気付く。 ⑥ 生活や遊びの中で、年長児や保育士等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しむ。

3-9

【人間関係】

自分で何かをしようとする気持ちを尊重



3-10

1歳以上3歳未満児保育の内容(環境)

自分でしようとする気持ちを尊重し、愛情豊かに、応答的に関わる必要がある。保育指針第2章2(2)に記載されている。



領域	内 容
環境	① 安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする。 ② 玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ。 ③ 身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く。 ④ 自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境を捉える感覚が育つ。 ⑤ 身近な生き物に気付き、親しみをもつ。 ⑥ 近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ。

【環境】

3-11

玩具などの選びや身近な自然環境



3-12

1歳以上3歳未満児保育の内容(言葉)

自分でしようとする気持ちを尊重し、愛情豊かに、応答的に関わる必要がある。保育指針第2章2(2)に記載されている。



領域	内 容
言葉	① 保育士等の応答的な関わりや話しかけにより、自ら言葉を使おうとする。 ② 生活に必要な簡単な言葉に気付き、聞き分ける。 ③ 親しみをもって日常の挨拶に応じる。 ④ 絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ。 ⑤ 保育士等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ。 ⑥ 保育士等を仲立ちとして、生活や遊びの中で友達との言葉のやり取りを楽しむ。 ⑦ 保育士等や友達の言葉や話に興味や関心をもって、聞いたり、話したりする。

3-13

【言葉】

楽しく言葉のやり取りができるようにする工夫



3-14

1歳以上3歳未満児保育の内容(表現)

自分でしようとする気持ちを尊重し、愛情豊かに、応答的に関わる必要がある。保育指針第2章2(2)に記載されている。



領域	内 容
表現	① 水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。 ② 音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。 ③ 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。 ④ 歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする。 ⑤ 保育士等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする。 ⑥ 生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する。

3-15

【表現】

音楽表現や様々な表現の仕方を経験



A保育園の園児のBくん(1歳児)とCくん(1歳児)は、オモチャの取り合いをし、Bくんは、自分でオモチャを使うために、Cくんを噛みついてしまい、Cくんは、泣き出してしまった。

このような場合、保育士はどのようにかかわるべきでしょうか。

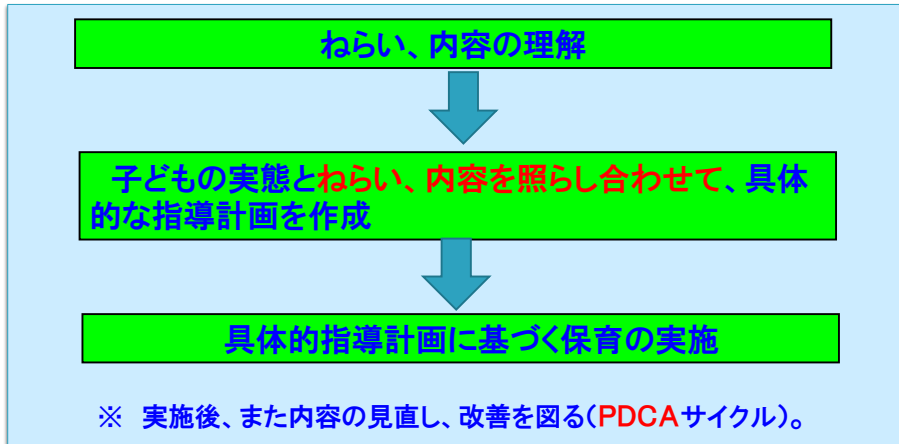
5つの領域の観点から考えてみましょう。



第4節 ねらい及び内容と指導計画

4-1

ねらい及び内容の具体化



4-2

指導計画に関する保育指針の規定

【保育指針 第1章 3 (2)】

ア 保育所は、全体的な計画に基づき、……(略)……、子どもの生活や発達を見通した**長期的**な指導計画と、それに関連しながら、**より具体的な子どもの日々の生活に即した短期的**な指導計画を作成しなければならない。

イ 指導計画の作成に当たっては、**第2章**及びその他の関連する章に示された事項のほか、**子ども一人一人**の発達過程や状況を十分に踏まえるとともに、次の事項に留意しなければならない。…(略)…

(ア) **3歳未満児については**、一人一人の子どもの生育歴、心身の発達、活動の実態等に即して、個別的な計画を作成すること。

(イ) 以下省略

ウ 指導計画においては、……(略)……子どもの発達過程を見通し、生活の連続性、季節の変化などを考慮し、子どもの実態に即した具体的な**ねらい及び内容**を設定すること。……(略)……

4-3 指導計画の種類と作成手順

全体的な計画に基づき、具体的指導計画を作成する。年間、期間、月間指導計画等の**長期的**なもの、週間カリキュラムやデイリープログラム等の**短期的**なものがある。

指導計画の作成手順は、

- ① 現在の子どもの姿(育ちや内面の状態等)の理解
 - ② 子どもの発達過程を見通し「**ねらい及び内容**」の設定
 - ③ これが具体的に達成できるような**環境**構成計画の作成
 - ④ 子どもの**主体的な活動**を予想し、そこへの**保育士等の適切な援助・配慮**を示す。
- というような順序で行う。

4-4-① 個別指導計画(1歳児以上3歳未満児)の実例

子どもの現在の状況 (実態)	保育士の考え	実際の指導計画
入園まもなく、言葉も少ない、Aちゃん(2歳5ヶ月)が散歩中、学校のうさぎを、しゃがんでじっと見る姿があった。	うさぎに興味があると思った。	(保育者が演じる)うさぎを題材にした歌や人形に関心をもつという ねらい をたて、歌を集まりの時にいった。
Aちゃんにそれほど関心のある様子が見られなかった。	Aちゃんがうさぎの何に(どんな様子に)興味があるのかそばに行ってAちゃんの視線や動きをよく見てみることにした。	「うさぎに親しみをもつ」を ねらい にし、もう一度、週の半ばに学校のうさぎを見に行く計画を立てた。

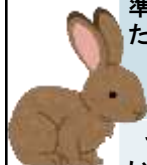


下段へ

次頁へ

4-4-② 個別指導計画(1歳児以上3歳未満児)の実例

子どもの現在の状況 (実態)	保育士の考え	実際の指導計画
<p>「Aちゃんの好きなうさぎさん、また見に行こうね」と散歩に誘うと、いつも嫌がるトイレに行き、お散歩の準備をする姿があった。</p> <p>うさぎが穴を掘っている様子を見て、Aちゃんが掘る様子をまねしていた。 心を動かしている様子だと感じた。</p>	<p>「楽しみだね。」などと、Aちゃんの「散歩に行きたい」「うさぎさんに会いたい」という気持ちに寄り添う言葉がけを行いたい。</p> <p>掘る様子の気づきを笑顔で受け止め、保育者も一緒に掘る仕草をした。 保護者にもその様子を知らせたいと思った</p>	<p>内容は、うさぎの様子を見て、気付いたことや感じたこと保育者に安心して表す。 配慮事項は、「Aちゃんの気づきに寄り添えるよう、言葉を返したり、一緒に動いたりする」ことにした。</p>

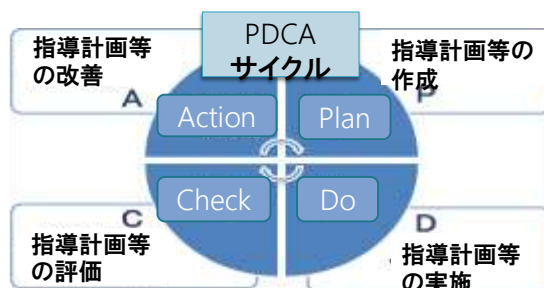


下段へ

4-5 PDCAサイクル

【保育指針 第1章 3(3)】

エ 保育士等は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化などに即して保育の過程を記録するとともに、これらを踏まえ、指導計画に基づく保育の内容の**見直し**を行い、**改善**を図ること。



4-6

PDCAサイクル実施例

この事例をPDCAサイクルに当てはめてみましょう。



4-7-①

PDCAサイクル実施例①

Aちゃんがうさぎの何に(どんな様子に)興味があるのかそばに行ってAちゃんの視線や動きを良く見てみることにした。



PDCA
サイクル

A改善

P計画

C評価

D実践

★Aちゃんがうさぎを、しゃがんでじっと見る姿があった。

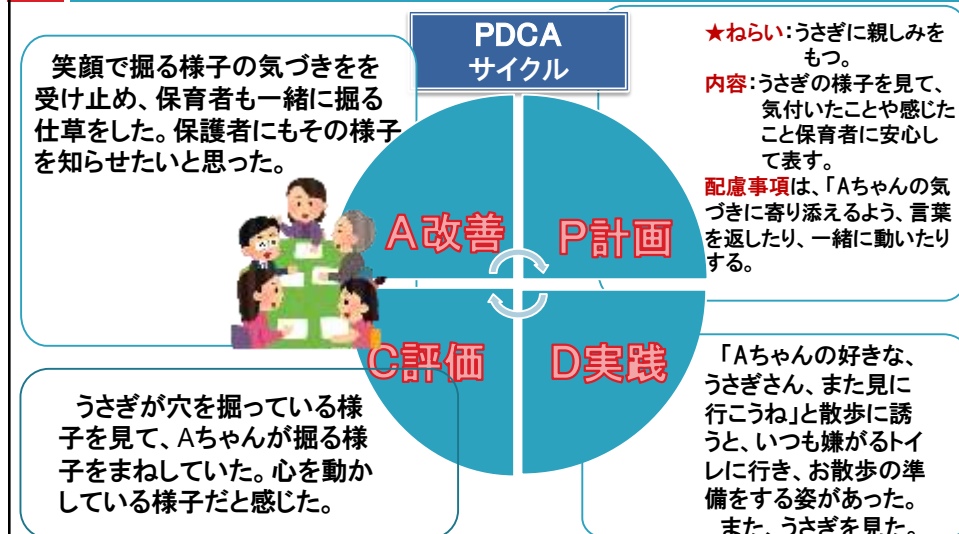
ねらい：うさぎを題材にした歌や人形に関心をもつ。

内容：うさぎの歌を楽しむ。

Aちゃんにそれほど関心のある様子が見られなかった。

集まりの時に、うさぎの出てくる歌を歌った。

4-7-② PDCAサイクル実施例②



第3章 3歳以上児の保育に関わる ねらい及び内容

第3章でお伝えしたいこと

第1節 章

3歳以上
児保育
の重要
性

第2節 基本的 事項

第3節 ねらい 及び内容

第4節 ねらい 及び内容 と 指導計画

第5節 小学校 との 接続

第1節 3歳以上児保育 の重要性

1-1

乳児保育や1歳以上3歳未満児の保育との関係

乳児保育

3つの視点



1歳以上3歳未満児の保育

5つの領域



3歳以上児の保育・個の成長と、子ども相互の関係や協同的な活動

・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

・小学校教育との接続

ここに3歳以上児保育の重要性がある。

第2節 基本的事項

2-1 発達の特徴(集団としての活動)

【保育指針 第2章 3(1)】

ア この時期においては、運動機能の発達により、基本的な動作が一通りできるようになるとともに、基本的な生活習慣もほぼ自立できるようになる。理解する語彙数が急激に増加し、知的興味や関心も高まってくる。仲間と遊び、仲間の中の一人という自覚が生じ、集団的な遊びや協同的な活動も見られるようになる。これらの発達の特徴を踏まえて、この時期の保育においては、**個の成長と集団としての活動の充実**が図られるようにしなければならない。

【保育指針解説 第2章3(1)】

自我が育ち、仲間とのつながりが深まる中で、自己主張をぶつけ合い、葛藤を経験することも増える。しかし、**共通の目的**の実現に向かって、話し合いを繰り返しながら互いに折り合いを付ける経験を重ねる中で、自分たちで解決しようとする姿も見られるようになる。また、仲間の一員として役割を分担しながら、**協同**して粘り強く取り組むようになる。

2-2 5つの領域

この時期は、子ども一人一人の自我の育ちを支えながら、集団としての高まりを促す援助が必要になる。

こうした発達の特徴を踏まえて、3歳以上児の保育の内容を「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の五つの領域によって示している

【保育指針 第2章 3(1)】

イ 本項においては、この時期の発達の特徴を踏まえ、保育の「ねらい」及び「内容」について、心身の健康に関する領域「**健康**」、人との関わりに関する領域「**人間関係**」、身近な環境との関わりに関する領域「**環境**」、言葉の獲得に関する領域「**言葉**」及び感性と表現に関する領域「**表現**」としてまとめ、示している。

【保育指針第2章3(1)イ】

3歳以上児保育のねらいと内容について5つの領域を示している。

心身の健康に関する領域

➡「健康」

人との関わりに関する領域

➡「人間関係」

身近な環境との関わりに関する領域

➡「環境」

言葉の獲得に関する領域

➡「言葉」

感性と表現に関する領域

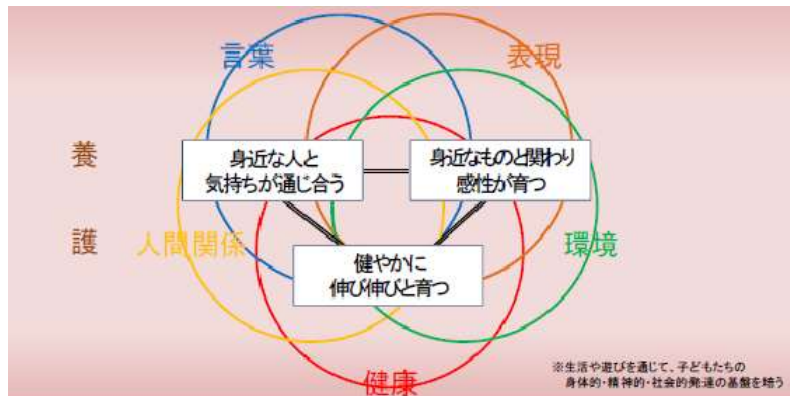
➡「表現」

領 域	具体的内容
健康	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。
人間関係	他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。
環境	周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。
言葉	経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。
表現	感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

2-5

3つの視点と5つの領域の関係

3つの視点と5つの領域を図に表すと下記のようなになる。



出典：厚生労働省雇用均等・児童家庭局「保育所保育指針の改定について」

2-6

「養護及び教育」を一体的に行う

【保育指針 第2章 3(1)】

ウ 本項の各視点において示す保育の内容は、第1章の2に示された**養護における「生命の保持」及び「情緒の安定」**に関わる保育の内容と、**一体となって展開される**ものであることに留意が必要である。

第2章の保育内容は、主に教育に関わる側面からの視点を示しているが、実際の保育においては、養護と教育が一体となって展開されることに留意する必要があります。

次に、「**養護及び教育**」を**一体的に行う**ということ、事例をもとに検討してみましょう。

2-7 養護および教育を一体的に行う保育の具体例

乳 児

おむつ替えは、清潔、健康の観点から重要で、生命の保持という観点から**養護**の一環であり、

また、保育士等が「さっぱりしたね」というような言葉を発することで、さっぱりする感覚、気持ちよいという感覚を学ぶ点で、**教育**の面もある。

幼児(3歳以上児)

自分の思い(ある友だちと一緒に遊びたい)を上手く言い出せない場合に、保育士等が仲立ちをして、言い出しやすくしてあげる場合は、子どもが自分の気持ちを安心して表すことができるようにするという意味で**養護**の面があり、

また、子どもにとっては、自分の気持ちが表せるようになる、という意味で、**教育**の面もある。

第3節 ねらい及び内容

3-1 3歳以上児保育のねらい ①

ねらいは、発達を捉える5つの領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）のそれぞれに関し、保育指針第2章3(2)に記載されてる。



領 域	ね ら い
1 健康	① 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。
	② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。
	③ 健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、見通しをもって行動する。

3-2 3歳以上児保育のねらい ②

領 域	ね ら い
2 人間関係	① 保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
	② 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。
	③ 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。
領 域	ね ら い
3 環境	① 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。
	② 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。
	③ 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。

3-3 3歳以上児保育のねらい ③

領 域	ね ら い
4 言葉	① 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
	② 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
	③ 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。
領 域	ね ら い
5 表現	① いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
	② 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
	③ 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

3-4 5つの領域のイメージ

下記のような子どもの姿に対して皆さんは、どのような言葉かけをしますか。



3-5 3歳以上児保育の内容(健康)

個の成長と集団としての活動の充実を図ることが必要である。

領域	内 容
健康	① 保育士等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。
	② いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
	③ 進んで戸外で遊ぶ。
	④ 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
	⑤ 保育士等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。
	⑥ 健康な生活のリズムを身に付ける。
	⑦ 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。
	⑧ 保育所における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。
	⑨ 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。
	⑩ 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動する。

3-6

【健康】

進んで戸外で遊ぶ



3-7 3歳以上児保育の内容(人間関係)

領域	内 容
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ① 保育士等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 ② 自分で考え、自分で行動する。③ 自分でできることは自分です。 ④ いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 ⑤ 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。 ⑥ 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 ⑦ 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。 ⑧ 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。 ⑨ よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。 ⑩ 友達との関わりを深め、思いやりをもつ。 ⑪ 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。 ⑫ 共同の遊具や用具を大切にし、皆で使う。 ⑬ 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

3-8 【人間関係】 共同の遊具や用具を大切にし、皆で使う。



3-9 3歳以上児保育の内容(環境)

領域	内 容
環境	① 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
	② 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。
	③ 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
	④ 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。
	⑤ 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。
	⑥ 日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。
	⑦ 身近な物を大切にする。
	⑧ 身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。
	⑨ 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。
	⑩ 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。
	⑪ 生活に関係の深い情報や施設などに関心や関心をもつ。
	⑫ 保育所内外の行事において国旗に親しむ。

【環境】

3-10

地域の環境に目を向ける



3-11

3歳以上児保育の内容(言葉)

領域	内 容
言葉	① 保育士等や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。
	② したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
	③ したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
	④ 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
	⑤ 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。⑥ 親しみをもって日常の挨拶をする。
	⑦ 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。
	⑧ いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。
	⑨ 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。
	⑩ 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。

【言葉】

3-12

絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。



3-13

3歳以上児保育の内容(表現)

領域	内 容
表現	<ol style="list-style-type: none"> ① 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。 ② 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。 ③ 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。 ④ 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。 ⑤ いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。 ⑥ 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。 ⑦ かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。 ⑧ 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

【表現】

3-14

音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。



3-15

5領域の「内容」の具体例①

ポイント

5つの領域に記載される様々な**内容**を経験することで、子どもは、**育みたい資質・能力**として規定される事項を身に付けていく。

詳細

【具体例】→ドッチボール

子どもたちは、チーム分けに関し言い争いになってが、住んでいる地域でチーム分けすることにし、ゲームを始めた。

試合の結果は、A君が属するチームが勝った。勝った原因の一つとして、Bちゃんがボールに当たらないように逃げるのが上手だったこともあった。

A君は、Bちゃんに「逃げるのが上手かったね！」と声をかけるなどして、同じチームの子どもたちと一緒に勝った喜びを味わった。

3-16

5領域の「内容」の具体例②

ポイント

前の例のドッチボールは、5領域の「**内容**」のどれにあたり、「**育みたい資質・能力**」のうちのどのような能力を育むでしょうか。

詳細

【保育指針第2章3(2)アイウエオの(イ)の**内容**】(一例)

「健康」の②③⑩ 「人間関係」の⑥⑦⑪

「環境」の②⑧⑨ 「言葉」の②③④

【保育指針第1章4(1)の**育みたい資質・能力**】

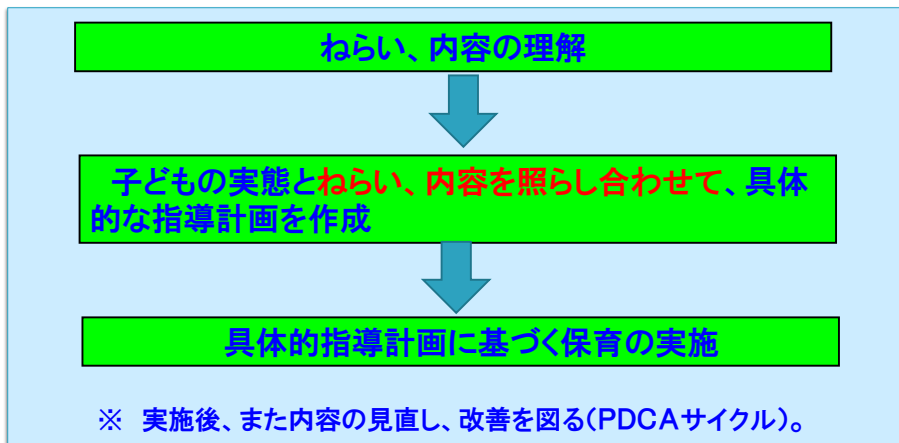
ア(ア)「知識及び技能の基礎」

ア(イ)「思考力、判断力、表現力等の基礎」

ア(ウ)「学びに向かう力、人間性等」

第4節 ねらい及び内容と指導計画

4-1 ねらい及び内容の具体化



4-2 指導計画の種類と作成手順

全体的な計画に基づき、具体的指導計画を作成する。年間、期間、月間指導計画等の**長期的**なもの、週間カリキュラムやデイリープログラム等の**短期的**なものがある。



指導計画の作成手順は、

- ① 現在の子どもの姿(育ちや内面の状態等)の理解
 - ② 子どもの発達過程を見通し「**ねらい及び内容**」の設定
 - ③ これが具体的に達成できるような**環境**構成計画の作成
 - ④ 子どもの**主体的な活動**を予想し、そこへの**保育士等の適切な援助・配慮**を示す。
- というような順序で行う。

4-3 指導計画の作成に関する保育指針

【保育指針 第1章 3 (2)】

イ 指導計画の作成に当たっては、**第2章**及びその他の関連する章に示された事項のほか、**子ども一人一人**の発達過程や状況を十分に踏まえるとともに、次の事項に留意しなければならない。…(略)…

(ア) (略)

(イ) 3歳以上児については、**個の成長**と、**子ども相互の関係**や**協同的な活動**が促されるよう配慮すること。

上記に加えて、3歳以上児の保育において重要なのは、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」と「**小学校との接続**」を検討しなければならない点です。

4-4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項

新しい保育所保育指針は、**小学校との連続性**を保障する観点から、保育所、幼稚園、認定こども園と共通の内容である「**幼児教育を行う施設として共有すべき事項**」を規定している。



【3歳以上児の教育部分を共通にする。】

保育所保育指針 ⇒ 第1章—4

幼稚園教育要領 ⇒ 第1章—2

幼保連携型認定こども園教育・保育要領
⇒ 第1章 第1—3

4-5 ねらい及び内容に基づく保育の目的

【保育指針 第2章3(3)】

ア 第1章の4の(2)に示す「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」が、ねらい及び内容に基づく活動全体を通して**資質・能力**が育まれている子どもの小学校就学時の具体的な姿であることを踏まえ、指導を行う際には適宜考慮すること。

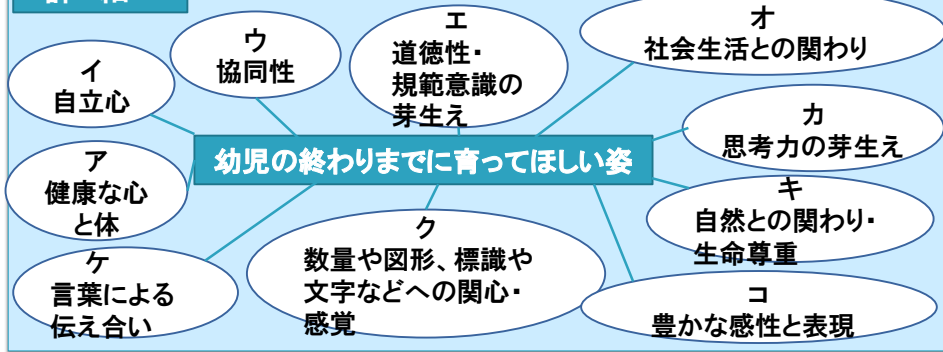
上記、保育指針では、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」とありますが、これが具体的にどのようなものかを検討していきましょう。

4-6 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の10項目

ポイント

保育所保育指針では、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿として、10項目をあげている。

詳細



4-7 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に関する保育指針の規定。

【保育指針 第1章 4 (2)】

次に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第2章に示すねらい及び内容に基づく保育活動全体を通して資質・能力が育まれている子どもの小学校就学時の具体的な姿であり、保育士等が指導を行う際に考慮するものである。

ア 健康な心と体

保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる

イ 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

……………以下省略

4-8

指導計画と幼児期の終わりまでに育って欲しいの姿と指導計画

ポイント

指導計画と「**幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿**」はどのような関係にたつのでしょうか。

詳細

「**幼児期の終わりまでに育って欲しい姿**」は、5領域の具体的な姿として示されたものである。指導計画実施の最終目的ともいえるものである。

したがって、これは指導計画実施の評価項目ともいえる。

これを評価項目として、指導計画・保育内容で足りないものは何か、を検討し、次の計画に活かすことができる。

この意味で、「**幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿**」の内容については、十分に理解しておく必要がある。

第5節 小学校との接続

5-1 小学校との接続の重要性

保育所を終えた子どもは、小学校に入学する。

ただ

保育所の幼児教育と小学校教育では、教育の方法が大きく異なる。

いわゆる

保育所の幼児教育と小学校教育の**段差**である。

この



段差が、子どもの小学校との適応を困難にする。

そこで

この段差を解消する必要性が生ずる。



5-2 保育所の幼児教育と小学校教育の違い(段差)

保育所の 幼児教育	計画的に環境を構成し、生活や遊びを中心とした体験。経験カリキュラム	
小学校教育	時間割に基づき、各教科の内容を教科等を用いて行う学習が中心の教科カリキュラム	

上記のようなカリキュラムの構成原理の違いを**段差**という。

5-3 段差・構成原理の違いの主な具体例

比較項目	保育所幼児教育	小学校教育
全体的・総合的な特徴	・遊びを中心とする生活を通した総合的な指導。	・教科等の学習を中心とする指導
教育の最小単位	・一日が教育の最小単位。	・単位時間により、学習活動を区切る。
一日のスケジュール	・幼児の興味や関心、意識の流れに沿って活動が展開し、一日の流れを構成。	・一定の時間割に基づいて学習活動が展開される。
ねらい	・ねらいは方向目標。 保育士等が、幼児の活動に沿ってねらいを設定し、環境を構成し、援助を重なることで、ねらいに近づく。	・ねらいは到達目標。 教科等の内容に沿って、単元が構成され、それに沿って、学習活動が展開する。

5-4 段差・構成原理の違いの具体例 ②

比較項目	保育所幼児教育	小学校教育
教材	・教材は、一人一人の具体的な体験。	・教材は、全員共通の教科書。
集団生活	・一人ひとりの関心や、グループでの遊びを通して関わる。	・クラス単位で学び、教育活動を通して関わる。
評価の有無	・特に評価はせず、どのような能力が育まれたのかを個人の生活全般について記録を残す。	・学習の習熟度(理解度や関心度)を評価する。

5-5

段差を解消する方法(保育指針)

【保育指針 第2章 4(2)】

ア 保育所においては、保育所保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通じて、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること。

5-6 段差を解消する方法(保育所の役割)

【保育指針解説第2章4(2)ア】

【保育所の役割】→就学前準備保育

小学校への入学が近づく時期には、**皆と一緒に保育士等の話を聞いたり、行動したり、きまりを守ったり**することができるよう指導を重ねていくことも大切である。

さらに、**共に協力して目標を目指す**ということにおいては、幼児期の保育から見られるものであり、小学校教育へとつながっていくものであることから、保育所の生活の中で**協同して遊ぶ経験を重ねる**ことも大切である。

5-7 段差を解消する方法(具体例)

【具体的保育活動の一例】

＜皆と一諸に保育士の話を聞く＞

- ・同じ時間に皆と一緒に、保育士の絵本の読み聞かせを聞く。



＜決まりを守る＞

- ・保育所での生活の中で、皆で使う遊具や用具を大切にし、譲り合って使う決まりをつくり、それを守るようにしていく。

＜皆と一諸に行動・目標を達成＞

- ・防災訓練や防犯訓練を通じて、皆と一緒に集団行動ができるようにする。

＜協同して遊ぶ経験を重ねる＞

- ・子どもたちが、各自役割(店員や客)決めてお店屋さんごっこをする中で、子どもたち同士でやり取りしながら協同で遊ぶことを覚える。

＜その他＞→各保育所での工夫

5-8 段差を解消する方法（小学校の役割）

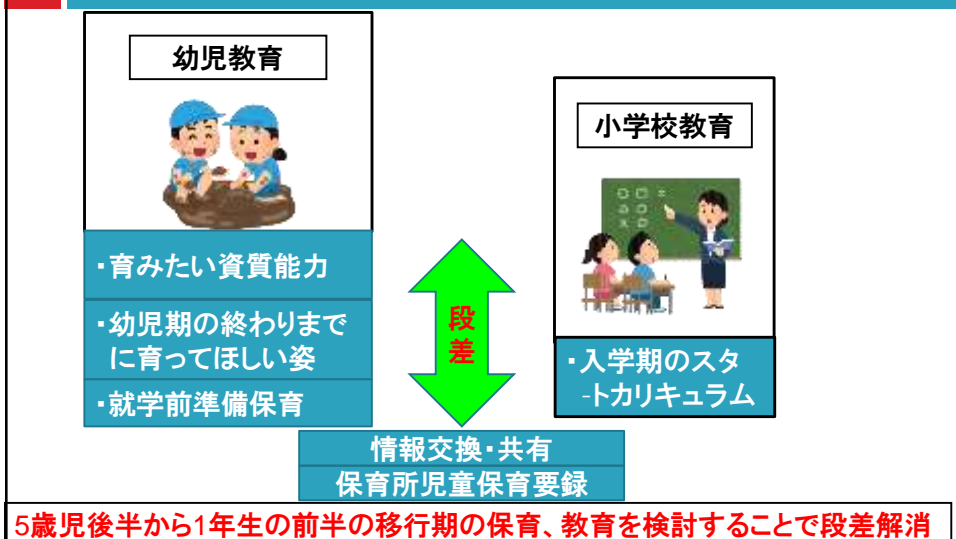
【小学校の役割】

小学校においても、保育所から小学校への移行を円滑にすることが求められる。低学年は、幼児期の保育を通じて身に付けたことを生かしながら教科等の学びにつながる時期であり、特に、入学当初においては、**スタートカリキュラム**を編成し、その中で、生活科を中心に合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定なども行われている。

このように

保育所と小学校が**それぞれ指導方法を工夫すること**で、円滑な接続(子どもが自分の力で乗り越えられるようにする)が図られる。

5-9 幼児教育と小学校教育の段差と解消法(再掲)



5-10

幼児教育と小学校教育との接続(まとめ)

保育所と小学校の違い

生活や遊びを中心とした
経験カリキュラムである幼
児教育に対して、小学校教
育は教科等の学習が中心
の**教科カリキュラム**となる。
カリキュラムの構成原理
が異なる。
このような違いは段差と
いわれる。



解決策

特に5歳児後半から1年
生の前半の移行期の保
育・教育を見直しなが
ら、ある程度まで**段差**を低
くして、どの子どもも自
分の力でその**段差**を乗り越
えられるようにしていく
ことである。

